東都大学準硬式野球秋季リーグ戦

勝ち点2で2位に
新戦力の台頭光る

▶ チームを支えたエースの高橋

東都大学準硬式野球秋季リーグ戦（9月1日～10月28日、上柚木公園野球場ほか）で専大は6勝4敗の勝ち点2で2位となった。個人ではベストナイン・捕手に植田博貴（商2・広陵高）が選出された。

山岡大輝（経営3・常総学院高）を中心に、国士大2回戦では4点差をひっくり返し、逆転勝ちをするなど粘りのある野球を披露。1年次生ながらスタメンに定着し、活躍した椎谷祐貴（経営1・県立岐阜商高）、富田一貴（法1・松本第一高）の存在も光った。

エースの高橋陽一（経営2・静岡商高）が好投し、チームを支えた。6勝中5勝が高橋の登板で、東都を代表する投手へと成長した。

来年のリーグ戦や全日本選手権を目指す上では、高橋に続く投手が鍵になる。そこで活躍が期待されるのは国学大戦で初勝利を挙げた渡邉貴一（経営1・専大松戸高）だ。今季の経験を来春に生かしてほしい。

（真田　泰太・文2＝写真も）

バスケット・関東大学リーグ戦

3位と大躍進
宇都が3年連続得点王

9月1日から10月28日まで、代々木第二体育館ほかで、関東大学バスケットボールリーグ戦が行われた。専大は11勝7敗で3位に入賞し、個人では宇都直輝（経営2・中部大第一高）が優秀選手賞と3年連続の得点王に輝いた。

昨年は8位と悔しい結果に終わったが、今年は「DEFENSE　REBOUND　TEAM」をテーマに掲げ、優勝を目指してきた。

中原雄監督は「チームとして手ごたえはあったが、メンタルを維持していくのが難しかった。試行錯誤を繰り返し、来シーズンはよい成績を残せるよう頑張りたい」と語った。

▲ 優秀選手賞も受賞した宇都（中央）

バドミントン・全日本学生選手権

団体、女子ダブルスでベスト8

10月19日から25日まで、全日本学生バドミントン選手権（以降、インカレ）が神戸市総合運動公園グリーンアリーナ神戸ほかで行われた。専大は団体でベスト8。個人戦では女子ダブルスで平井亜紀（商3・高松商高）・山田真央（文3・埼玉栄高）組がベスト8入りを果たした。

関東大学女子リーグ戦

苦戦も1部残留決める

関東大学新人戦で優勝した女子バスケットボール部だったが、関東大学女子リーグ戦（9月1日～10月21日、代々木第二体育館ほか）では苦戦が続き、4勝10敗で7位に終わった。

2部2位の日体大との入れ替え戦は岡村郁美（人間科学1・金沢総合高）の活躍もあり71―66で勝利し、1部残留を決めた。

児玉茂監督は「後半に自分たちのミスから崩れる試合が多く、不本意な結果だったが、選手たちはよくやってくれた」と語った。

（石川　達也・人間科学1＝写真も）

ローラースケート・全日本学生選手権

総合で男子総合2位、女子3位

10月5日から7日まで、長野県千曲川リバーフロントスポーツガーデンで全日本ローラースケート選手権が行われ、男子は総合3位と好成績だった。

男子はスピード部門の成績が顕著で、300㍍タイムトライアルレースで藤本将貴（経済3・生田高）が、同1500㍍で篠崎郁哉（法3・作新学院高）が、同5000㍍で矢吹健（法4・福島西高）が優勝。1600㍍リレーで矢吹・篠崎・藤本・岡部恵士（法2・日大東北高）組も優勝し、スピード部門で1位。ホッケー部門は3位だった。

女子はスピード部門の1600㍍リレーで木方みのり（文4・高島高）・海福三咲（文3・三島北高）・北村祐香里（経営1・釧路湖陵高）・山崎育慈（経営1・諫早高）組が2位、300㍍タイムトライアルレースで海福が2位。結果、スピード部門で2位となった。

（吉崎　宇忠・商2）

▲ 総合2位の男子チーム

自動車・関東学生対抗軽自動車6時間耐久レース

学生一般の部

2年連続の優勝
加盟校の部では4位に

▲ 2位に10周差をつけて2年連続の優勝

10月8日、信州スポーツランドで関東学生対抗軽自動車6時間耐久レースが行われた。専大は学生一般の部で昨年に引き続き優勝。加盟校の部では4位となった。

この大会は山道を6時間走り続け、周回数を競う。学生一般の部では122周を走り、2位と10周差をつけて圧倒的な勝利を収めた。

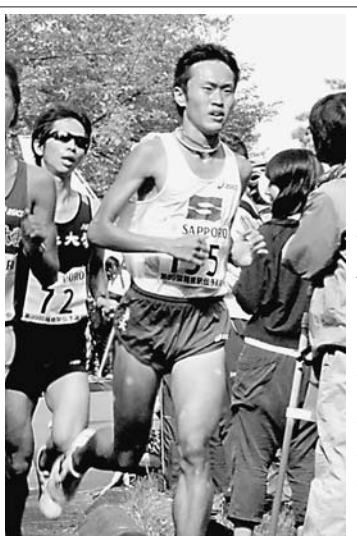
チームを引っ張った野澤成良（文2・甲府第一高）は「丁寧なドライビングを心がけた。走行中マフラーが落下するアクシデントもあったが、周囲の協力でうまく回避できた」とコメントした。

（村上　大晃・文2）

陸上・箱根駅伝予選会

総合11位で出場逃す
大橋主将は2年連続関東学連選抜に

10月20日、東京・立川市の国営昭和記念公園で東京箱根間往復大学駅伝競走予選会が開催され、専大は総合11位となり2年ぶりの箱根駅伝出場とはならなかった。



▶ 力走する大橋主将（撮影・村上）

大橋秀星主将（文4・専大松戸高）が1時間0分29秒で20位、斉藤翔太（商2・一関学院高）が1時間0分41秒で40位とチームをけん引。上位10人の総合タイムでも10時間16分34秒と昨年より約1分30秒タイムを縮めたものの、夢の舞台にはあと一歩届かなかった。

大橋主将は「本大会を目標にやってきたので悔しいし、応援してくださった方に申し訳ない」と涙をにじませた。伊藤国光監督は「今の段階では他校の方が力があったということ。この結果を受けとめ、底上げしていきたい」と語った。

なお、大橋主将が2年連続で関東学連選抜のメンバーに選ばれた。（湯澤　時生・人間科学1）

レスリング・全日本大学グレコローマン選手権

60kg級で中村が8位

レスリングの全日本大学グレコローマン選手権が10月18、19の両日、駒沢体育館で行われ、60kg級で中村裕貴（商4・宮古高）が8位となった。

馳浩監督は「試合展開が受け身になり、1ピリオド目で点を取るという勝ちパターンに持ちこめなかった。積極的に守りの姿勢を見せなくては勝てない」と振り返った。

（葛西　千瑛・文2）

スキー部創部90周年記念式典開く

スキー部の創部90周年記念式典が10月13日、神田キャンパスで開催された。同部のOB会である鳳雪会（篠原満也会長＝昭37商経）会員や、現役部員ら90人が参列し、節目の年を祝った。

式典終了後には祝賀会が催され、出席者たちは旧交を温めた。

テニス部

男子部創部50周年・女子部創部25周年記念式典を開催

10月13日、東京・九段下のホテルグランドパレスで、テニス部の男子部創部50周年・女子部創部25周年記念式典が行われた。全国から約90人のOB・OGが参加し、歴代監督・部長、現役学生とともに記念の年を祝った。

式典では牧野文則OB・OG会会長（昭53商）から「男女ともに全日本大学対抗王座優勝」という目標が掲げられ、全員で校歌を斉唱し、会を締めくくった。

ボクシング部OBでプロボクシングWBCバンタム級王者の山中慎介さん（平17商＝帝拳ジム）が11月3日、宮城県のゼビオアリーナ仙台で2度目の防衛戦を行い、同級7位のトマス・ロハス（メキシコ）に7ラウンド36秒KO勝ちを収めた。

元WBCスーパーフライ級（バンタム級の1階級下）王者で2階級制覇を目指したロハスに対し、山中さんは1ラウンドから積極的に攻勢に出た。最後は連打の後、カウンターで強烈な左フックを決め、相手をマットに沈める完勝だった。

ボクシングWBCバンタム級王者

山中さん7ラウンド「KO」でV2